

釜石市立小・中学校における学校規模の適正化・適正配置基本方針

(令和6年3月策定)

1 基本方針の概要

(1) 釜石市の教育の基本理念

第三次釜石市教育大綱では、釜石市の教育の基本理念を「志と豊かな心を持って未来を拓く力を育む人づくり」としています。変化の激しいこれからの社会を生きるためには、基礎的・基本的な知識・技術を活用して自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、課題解決に取り組むことが大切です。

将来のまちづくりを担う子どもたちが自らの夢や希望を実現できるよう、郷土を愛する心を涵養するとともに、集団の中で切磋琢磨しながら確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、知・徳・体の調和のとれた「強く生き抜く力」の育成を目指します。

(2) 目的

当市の学校教育が目指す「強く生き抜く力」を育成するために、児童生徒にとって望ましい教育環境の整備を図ることを目的とします。

(3) 手法

- ① 全市的な観点から学校統合を検討します
- ② 小中一貫教育（小中一貫校及び義務教育学校）の導入の可能性について検討します

(4) 基本方針と方策

	基本方針	適正化・適正配置の方策
1	望ましい教育環境の整備 児童生徒にとって望ましい教育環境の整備を図ることを目的に行います。	<ul style="list-style-type: none"> ●当面は、現在の5中学校区内から学校がなくなることはないように配慮する必要があると考え、小学校を1校は存続することを基本とします。 ●中学校において全ての教科で専門免許を有する教員を確保するためには、9学級以上が必要となり、市内全ての中学校を一つに統合する必要があります。しかし、学区が広範囲になるなどの課題が生じることから、複数校の設置が必要であると考えます。 ●校舎は、既存の校舎を活用することを基本とします。
2	学校規模の考え方 学校規模の標準は、小・中学校	【小学校】 学級数6学級以上（各学年1学級以上）を基準とします。

	基本方針	適正化・適正配置の方策
	とも 12 学級から 18 学級とされていますが、当市の実情に応じて適正化・適正配置を行います。 複式学級の措置は、可能な限り行わないこととします。	【中学校】 学級数 9 学級以上（各学年 3 学級以上）が望ましいと考えますが、学区が広範囲になるなどの課題があることから、8 学級以下となってもやむを得ないものとします。この場合、小中一貫教育の導入についても検討します。 【1 学級の人数】 15 人～35 人
3	小規模校を存続させる場合の教育の充実 小中一貫教育（小中一貫校及び義務教育学校）の導入を検討します。	小中一貫教育の導入について検討するとともに、小規模校を存続させる場合は、小規模校のメリットを生かし、デメリットを最小化する工夫を行います。
4	通学条件を考慮した適正配置 児童生徒の状況及び通学距離などの児童生徒の負担を考慮した適正化・適正配置を行います。	通学時間は、小学校は 45 分以内、中学校は 1 時間以内を目安とし、通学距離が小学校はおおむね 2.6 km 以上、中学校はおおむね 4 km 以上の場合は、スクールバスの運行など通学手段の確保に努めます。
5	保護者、地域、市民の理解 保護者や地域、市民への理解を得ることに努めるとともに、学校と地域とのつながりへの配慮に努めます。	これまでの学校と地域との関わりに十分配慮し、学校規模の適正化・適正配置の必要性や考え方について、各中学校区での説明会やパブリックコメントの実施、教育広報の活用など、様々な機会を用いて理解を図るよう努めます。

2 基本方針に基づく対象校の抽出

No.	抽出の条件	学校名
1	複式学級を有する学校	白山小学校、栗林小学校、唐丹小学校
2	令和 12 年度までに複式学級が予測される学校	釜石小学校、唐丹中学校
3	令和 12 年度までに 9 学級の確保が見込めない中学校	釜石中学校、甲子中学校、釜石東中学校、大平中学校、唐丹中学校
4	令和 12 年度に全ての学級が 15 人未満となる学校	釜石小学校、双葉小学校、白山小学校、栗林小学校、唐丹小学校、唐丹中学校